

第 11 回 新得町地域公共交通活性化協議会議案

と き 平成 2 7 年 1 月 1 9 日（月） 1 0 : 0 0 ~

ところ 新得町役場 3 階 大会議室

会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

報告第 1 号 経過報告 2

報告第 2 号 平成 2 5 年 1 0 月～平成 2 6 年 1 1 月のコミュニティバス利用状況 3

報告第 3 号 コミュニティバス「そばくる」利用者アンケート結果 4

4 議 題

議案第 1 号 地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について 5

5 そ の 他

6 閉 会

新得町地域公共交通活性化協議会 委員名簿

	分野	所属団体名等	役職	氏名	備考
1	計画策定	新得町	副町長	田 中 透 嗣	
2	道路管理者	帯広開発建設部道路計画課	課長	鈴 木 善 人	
3		十勝総合振興局帯広建設管理部鹿追出張所	所長	長 沢 誠	
4	公共交通事業者	北海道拓殖バス株式会社	営業課長	小 森 明 仁	
5		新得ハイヤー有限公司	社長	石 畑 政 俊	
6		株式会社新交通	代表取締役	吉 尾 正 一	
7		北海道旅客鉄道株式会社新得駅	駅長	菅 原 俊 明	
8		北海道地方交通運輸産業労働組合協議会 十勝地区交通運輸産業労働組合協議会	副議長	高 橋 敏 朗	
9	利用者代表	新得町商工会	会長	湯 浅 悟 史	
10		屈足商工振興協議会	会長	竹 浦 隆	
11		新得町観光協会	会長	若 原 敏 勝	
12		新得町PTA連合会	会長	伊 藤 仁 浩	
13		社会福祉法人 新得町社会福祉協議会	会長	古 川 盛	
14		新得町女性団体連絡協議会	会長	中 井 由 利 子	
15		新得市街地区連合町内会	会長	岩 谷 吉 彦	
16		屈足市街地区連合町内会	理事	片 桐 浅 夫	
17		すこやかクラブ	会長	北 敏 夫	
18		報徳クラブ	会長	菅 野 益 二 郎	
19		株式会社福原 新得店	店長	坪 内 孝 司	
20		株式会社福原 屈足店	店長	大 泉 和 繁	
21		けいら整形外科医院	総務課長	福 木 琢 也	
22		新得診療所	院長	佐 藤 夏 子	
23		サホロクリニック	事務長	若 林 尚	
24	運輸局	北海道運輸局 帯広運輸支局	首席運輸企画専門官	頼 本 英 一	
25	警察	新得警察署	交通課長	山 内 寛 人	
26	北海道	十勝総合振興局地域政策部地域政策課	課長	山 田 恭 一	
	事務局長	新得町地域戦略室	室長	佐 藤 博 行	
	事務局員	新得町地域戦略室地域戦略係	係長	加 賀 谷 敬	
			主任	大 橋 祐 貴	
			主事	永 田 智 子	

報告第 1 号

経 過 報 告 （第 1 0 回協議会以降）

平成 2 6 年度

- 9 月 6 日 花火大会にてコミュニティバス P R
- 1 1 月 1 7 日～ コミュニティバスそばくる利用者アンケート実施
- 1 2 月 1 7 日 ※コミュニティバス内にアンケート設置、1 2 枚回収

報告第 2 号

平成 25 年 10 月～平成 26 年 11 月のコミュニティバス利用状況

1. 1 日あたりの乗車数

(1) 総計（新得市街地＋屈足地区）　＜別紙 1＞

5 月から 8 月までは乗車数が連続で増加した。特に 8 月の夏休み期間については、ビーバーに通う屈足地区の子どもたちや、新得地区や屈足地区に集まって合同で練習を行う少年団員に対して、無料乗車券を配布したため、乗車数が大きく伸びた。9 月以降は、乗車数は落ちているが、目標の 20.4 人/日以上を維持している。

(2) 新得市街地　＜別紙 2＞

特に西地区から東地区へ、日常の食料や日用品の買い物目的に利用する方が多い。4 月からは、自転車に転換する人が多く出てきており、乗車数が落ちている。7 月以降は、目標の 11.3 人/以上の乗車数を維持している。

(3) 屈足地区　＜別紙 3＞

特に通院目的、会合やクラブ等で利用される方が多く、路線バスと相互利用している方が多くみられる。6 月以降は、目標の 9.1 人/日以上の乗車数を維持している。目標以上の乗車数が維持できている理由として、新得市街地への目的地（医療機関等）までは距離があるため、自転車に転換する人がいないことが挙げられる。

2. 利用の多いバス停

新得駅、フクハラ新得店、フクハラ屈足店、エーコープ、相馬商店、神社前、やすらぎ荘、サホロクリニック、新得診療所、けいら整形外科、グループホームさくら、新得郵便局、公民館、なごみ、西和、つつじヶ丘、ひばり、若草、さくら、親和、かえで西、屈足 22 号、幸町 4 丁目、柏町 1 丁目、あいの郷ふれあい、屈足常盤、総合会館前など

3. 屈足早朝便の利用状況

屈足から帯広方面の高校へ通う学生が、毎便 5 人利用している。帯広方面の通勤目的で、利用している人もいる。

4. その他

平成 25 年 10 月から平成 26 年 11 月の間で、早朝便を含めて、総計 8,742 人（早朝便 937 人）の利用があった。自家用車を持たない高齢者を中心に、生活の足として利用されている。今後も PR 等を行い、利用促進を図りたい。

報告第3号

コミュニティバス「そばくる」利用者アンケート結果

回収：12枚

問1 年代について

- 1 20歳代（1名）
- 2 30歳代（2名）
- 3 40歳代（2名）
- 4 50歳代（1名）
- 5 70歳代（2名）
- 6 80歳代（3名）
- 7 無回答（1名）

問2 性別について

- 1 男性（5名）
- 2 女性（6名）
- 3 無回答（1名）

問3 バスの利用頻度について

- 1 週に5日以上（1名）
- 2 週に3～4日（3名）
- 3 週に1～2日（3名）
- 4 月に2～3日（4名）
- 5 月に1日以下（1名）

問4 バスの利用目的について

- 1 通勤・通学（1名）
- 2 通院・治療（5名）
- 3 買物・飲食等（10名）
- 4 会合・趣味活動（1名）
- 5 その他（2名-駅前温泉の利用）

問5 バス利用にあたっての満足度について

- 1 大変満足（2名）
- 2 満足（4名）
- 3 普通（4名）
- 4 やや不満（2名-土曜日のバス数の少なさ、家の前で降ろしてほしい）
- 5 大変不満（0名）

問6 今後、バスに立ち寄って欲しい場所について

- 1 な い（8名）
- 2 あ る（3名-屈足南町、15時55分公民館前の後になごみ）
- 3 無回答（1名）

問7 改善すべき点などについての御意見

- ・ぜひ日曜日や祭日も利用したい。
- ・停留所に屋根があると良い。
- ・1日5便は多すぎるのではないかな。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名：	新得町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	新得町は、北海道の重心に位置しており、面積1063.79km²、人口は平成26年12月現在で6,454人の町である。 本町の幹線の交通については、一定の公共サービスが充足しているものと考えられていたが、幹線へつなげるフィーダー交通がないため、住宅地と幹線交通の駅や停留所に距離があり、公共交通が利用しにくい状況となっていた。 現在、コミュニティバス「そばくる」の運行が開始され、有料にも関わらず、多くの方に利用いただいております、住民の移動手段としての公共交通の必要性が十分に確認されているところである。 住民が将来にわたって住み続けたいと思われる町を実現するため、また、今後のさらなる高齢化に向けた対策として、コミュニティバスの確保維持が不可欠となっている。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名： 新得町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道拓殖バス株式会社	新得市街地線(西地区・東地区)を1日5便、屈足地区線を1日3便運行。		A	事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	目標乗車人数20.4人/便(4月～11月)に対し21.3人、41.3人/便(12月～3月)に対し24.3人であった。	平成27年度は、より手軽にバスを利用してもらうために、ポケット時刻表を作成し配布する。 また、今後、町民の意見を反映した路線の再検討等を行い、より身近なフィーダー交通として維持していく。

新得町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

北海道拓殖バス(株)が新得市街地線(西地区・東地区)を1日5便、屈足地区線を1日3便運行している。

今後、住民が将来にわたって住み続けたいと思われる町を実現するため、また、今後のさらなる高齢化に向けた対策として、地域に根付いたコミュニティバスを目指す。

地域公共交通の現況

- ・JR石勝線(新得駅)
- ・JR根室本線(新得駅)
- ・北海道拓殖バス(株)(町内1路線)
- ・スクールバス(5路線)

生活交通ネットワーク計画の目標

(1) 目標

4月～11月(積雪のない期間) ・新得市街地→11.3人/日 ・屈足地区→9.1人/日

12月～3月(積雪のある期間) ・新得市街地→24.7人/日 ・屈足地区→16.6人

(2) 効果

自家用車を持たない、または利用できない高齢者等の交通弱者の通院や買物等を目的とする生活交通が確保され、外出機会の促進を図る。

幹線交通とフィーダー交通の連携を強化することにより、公共交通の利用拡大を図り、安全で安心して暮らせる交通環境を確保する。

協議会開催状況

平成25年9月3日 書面総会

主な協議事項

- ・屈足早朝便の取り扱いについて

平成26年6月27日 協議会を開催

主な協議事項

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画の申請について

平成27年1月19日 協議会を開催

主な協議事項

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について

平成26年度事業概要

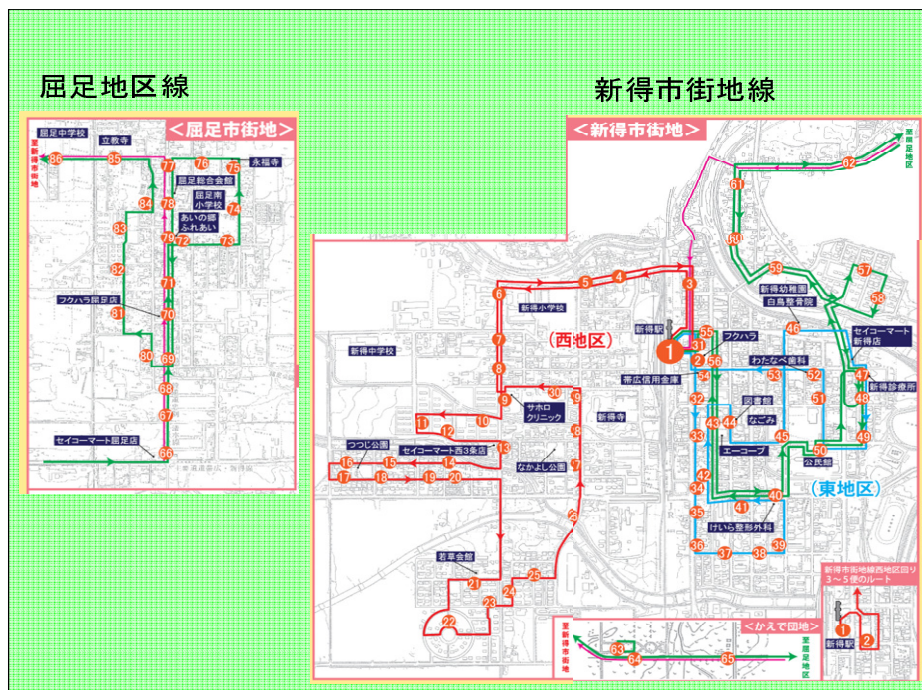
新得市街地線(西地区・東地区)を1日5便、屈足地区線を1日3便運行。

平成26年度事業の実施状況

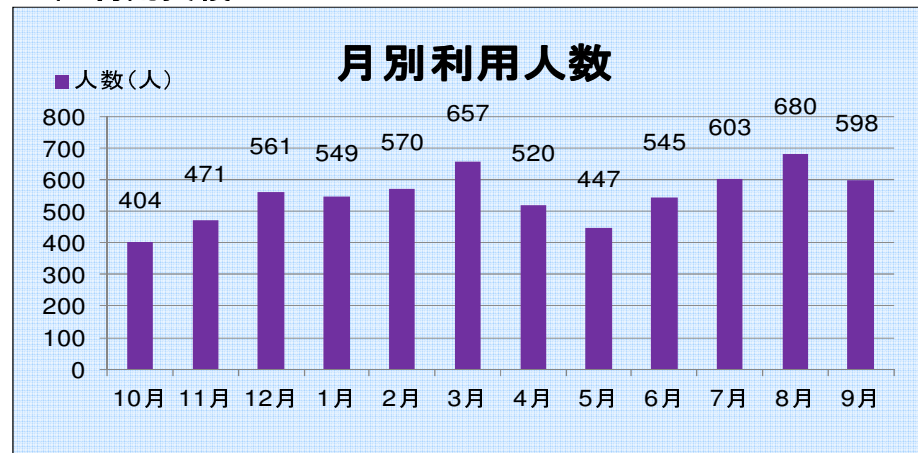
1) プロセス、創意工夫

- ・会合や会議へ出向いてのPR・宣伝
- ・町内イベント(あったかうまいもんフェア・花火大会)での運行PR
- ・高齢者いきいきサロンでの試乗会の実施
- ・スポーツ少年団員に対して無料乗車券の配布(少年団支援)

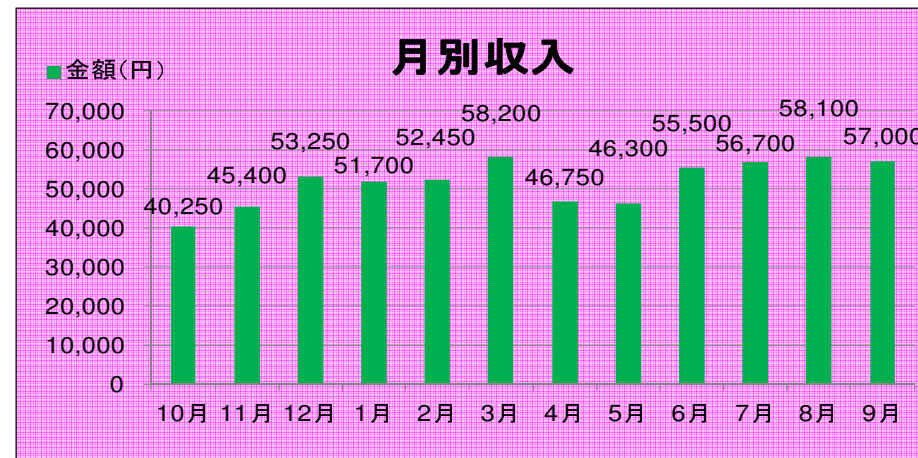
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

目標乗車人数20.4人/便(4月～11月)に対し21.3人、41.3人/便(12月～3月)に対し24.3人であった。

○詳細

4月～11月(積雪のない期間)

新得市街地→11.3人/日に対して、12.6人/日

屈足地区→9.1人/日に対して、8.7人/日

12月～3月(積雪のある期間)

新得市街地→24.7人/日に対して、16.8人/日

屈足地区→16.6人/日に対して、7.5人/日

7) 事業の今後の改善点

平成27年度は、より手軽にバスを利用してもらうために、ポケット時刻表を作成し配布する。

また、今後、町民の意見を反映した路線の再検討等を行い、より身近なフィーダー交通として維持していく。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄